

第24回（令和5年度）評議員会（外部評価委員会） 評議員からの コメントまとめ

第24回（令和5年度）評議員会（外部評価委員会）

○開催形式：書面による開催（R6.3月）

○送付資料：

- ・説明資料…八戸高専におけるグローバルエンジニア育成について
- ・その他参考資料

令和4年度年度計画・実績報告、令和4年度行動計画とその取組み結果報告書、令和5年度行動計画、令和5年度いじめ防止等対策の取組みについて、八戸工業高等専門学校いじめ防止等基本計画、学校要覧、カレッジガイド、学生便覧、地域テクノセンター報

コメント

グローバルエンジニア育成のための英語力強化や、国際交流における課題解決等の取組みが精力的に展開されています。新規と多様性に富む自主探究はもとより、学生の視野を拡げ、研究意欲を高揚させるカリキュラムとなっていると確信します。

広い意味での地域連携としては本年度、▽学生のボランティア愛好会が小中学校のプログラミング出前授業を行い、指導者不足に悩む地元に貢献し、まちづくり分野で市から表彰された▽プラスチック環境被害の軽減を目的に海藻成分のガチャガチャ用カプセルを提案、日本公庫主催ビジネスプラン・グランプリを受賞▽教員との連携で、サウナでのヒートショック予防に向けた体温予測モデル開発で最高賞を受けた一など朗報も多く、八戸に「高専あり」の発信力が際立っております。

新産業都市指定から60年経つ八戸市は、古くは地域を挙げて高専誘致を熱望し、勝ち取った歴史があります。その意味で、今後も地域の産業と連携を強めつつ、未来に輝ける人材育成を期待します。

「八戸高専におけるグローバルエンジニア育成について」に関する説明資料を中心に拝読させていただきました。資料のとおり、単なる英語能力の向上に留まらず、国際性、専攻分野と関連付けた英語コミュニケーション能力の涵養が極めて重要であり、本事業はそれに資するものといえます。本プログラムの到達目標としては、自分の研究を英語で発表し、あるいは他者の研究発表を英語で理解した上で、相互に真剣な熱い議論ができることかと思えます。海外での自主探究、海外の研究者を招いた自校自主探究の機会をより一層拡充させ、さらなるご発展を期待しております。

資料を拝見して、グローバルエンジニア育成への取り組みについては、優れた取り組みだと思いました。

特に「KOSEN 英語」については強い関心をもちました。発音が上手なペラペラな英語よりも実践的な英語コミュニケーション力という考え方は、一般の高校・大学では見られない、まさに高専ならではの英語教育といえるのではないのでしょうか。進級判定に英検取得や TOEIC を設定していることも、実績を見ると成功しているように思えます。

ただし、高専では、普通高校よりも英語の授業時間が少ないということも聞いたことがあります。これが事実だとすると、こういった部分を日常的にどのように補っていくのかも今後の課題ではないかと思われまます。

グローバルエンジニア育成について、産業界のグローバル化の進展に伴い、世界中の企業や組織が国境を越えて連携し、異なる文化や言語、価値観の中で働くことが一般的になってきており、国際通用性の高い人材を育成することは、これまで以上に重要になっていると認識している。

このような中、貴学のグローバルエンジニア育成事業では、低学年から専攻科生までの一体的なプログラムとして、専門知識と技術力を伴った実践的な英語コミュニケーション能力の獲得に向けた様々な取組を行っている。

中でも、海外協定校との連携による「国際自主探究」は、海外でのフィールドワークを通じて、コミュニケーション能力、英語運用能力、課題発見・解決能力の養成が期待されるものであり、海外の高等教育機関と多くの学術交流協定を締結している、貴学ならではの強みを活かした取組として高く評価できる。

国際社会で活躍できる人材の育成に向けて、これらの取組を一層推進していくことを期待する。

・令和 4 年度計画・実績報告に関して

☒▷「理工系人材の早期発掘とダイバーシティ型 STEAM 教育強化」は高専の重要事業であり、地域と連携して STEAM 教育の普及・強化を行い、理工系人材の早期発掘に継続的に取り組んでいただきたい。

☒▷令和 2 年度のカリキュラム改定の効果（学生の達成度の向上の有無等）について検証したうえで、次回カリキュラム改定を検討願いたい。

☒▷近い将来、KIS 認定を申請されることと思うが、アジア地区の KOSEN との連携のいっそうの強化も併せて行い、地域の若者の国際交流拠点としての役割も期待したい。

・八戸高専におけるグローバルエンジニア育成について

☒▷自主探究ポスター発表会を見学して学生の自主探究の精神が育まれていることを確認できました。また、国際自主探究もさらに発展させることを期待します。

☒▷説明資料 p.6 (ppt 資料 No.14) の KOSEN 英語のコンセプトに基づいて精力的に教育を実施されていること、およびその成果が上がっていることは高く評価できます。

・その他

☒▷学生自身が学習の達成度を確認できる仕組みは存在するようですが、ディプロマ・サプリメントのような形式で発行（もし発行されていないのであれば）できればよいのではと思います。

☒▷学生の成長過程や達成度を客観的に評価するために、例えば PROG テストなどを利用し、リテラシー、コンピテンシーを測定するなどの試み（もしされていないのであれば）を予算化（単独では困難ならば、高専機構として）して実施されてはいかがでしょうか。

グローバル人材の育成のために「KOSEN 英語」という目指すべき姿を設定し、さまざまな取り組みを試みているのは非常によい。

一方、学生の英語学習意欲をどう高めるのかについて非常に苦労している様子もうかがえます。

また、学習の結果の評価として、TOEIC といった外部審査機関を利用せざるを得ない事情も理解できます。

が、TOEIC の性質（一般ビジネス、読みと聴きに重点）上、KOSEN 英語が目指す方向性との違いがあるにもかかわらず、学生が TOEIC 「対策」に注力してしまうという側面はどうしてもでてくると思います。

結果、設定されている点数よりもはるかに高得点を得た学生が、必ずしも”話す”という能力が得られたかは別問題、という状況も生まれる可能性は少なくはないと思われます。

TOEIC について一定の点数を取ること自体が目的化することなく、KOSEN 英語の目指すコンセプトと乖離していないか、確認しながらコンセプトがめざす方向に近づくための、よりよい方法論を常に検討していただくようお願いします。

中学生が、高専進学を希望する場合、その大きな理由は「工学分野への興味」をもっていることであり、「工業高校進学よりも専門的で高度な学習を、5 年に渡ってできること」や「大学からではなく高校段階から専門的な勉強に取り組めること」などがあげられます。

しかし、我々中学校は、高専が八戸市にあることで進学の選択肢が増えているという好条件のもとにありながらも、貴校が進めている大きなプロジェクトをよく理解しないままに、進学させている、というのが実情です。

これは、中学校及び教職員の理解不足によるものです。

他の高校等への進学と同列にとらえていることや、進路指導＝進学指導と思ってしまっていることが原因として挙げられます。

常日頃、「夢をもちましょう！」と、生徒に語っても、実際には、夢をもたせるきっかけや、感情を起こさせる？こと、自分の思いを表現することへの取組が弱く、知識を身につけさせることに終始しているだけ、と感じることもあります。

教師自身が、学校で学び卒業後に学校で教鞭をとる・・・

つまりは学校しか知らないルートをたどってきているために、社会の大きな流れや常識をつかめずにいるのかも知れません。

グローバルエンジニア育成の様々な施策の中で、「KOSEN」英語について紹介されています。ここには、「必要だから英語を学ぶ。英語を駆使できれば自分の思いは世界中に広がる」といったような、明快な考えが見られます。

中学校・・・最近では小学校から始まる英語教育は、「何かに必要だから、英語を学ばなければいけない」とか「ひとつの目標として、英語検定に取り組んでみる」程度の、漠然とした思いしかないように感じてきました。

貴校のグローバルエンジニア育成事業は、とても有効であると感じます。日本の「国際競争力」の低下が叫ばれる中、貴校の卒業生が最前線で奮闘している状況を把握なさっているからこそ、問題意識が高まり、こうした取組につながっているのでしょう。

これらは工業系の世界だけでなく、あらゆる分野でいえることなのかも知れません。

生徒を進学させる中学校として、同じ危機感のようなものを共有することが大切であると感じながらもなかなか難しいことでもあると思ってしまうます。

その意味で、いろいろな取組、教育の状況を今後も中学校に提供いただくことが、中学校の意識改革につながるような気がします。

残念ながら、自主探究ポスター発表にはお邪魔することができませんでしたが、実践の数々を今後ご紹介ください。

先進的な取組を身近に感じられる八戸の生徒たちは、恵まれた環境にあると思います。時間はかかっても、その環境の素晴らしさに気づき、学び、羽ばたいていく生徒が増えていけるよう中学校も取り組んでいかなければならないと、改めて思いました。

グローバルな視点から、英語教育は非常に重要だと思います。

従来の一般的な学校教育でのカリキュラムでは、中学・高校と6年間学習しても英語が満足に話せる人が少ないなど、課題が多いものと思われます。

低学年のうちに英語の必要性を理解させ、会話能力、コミュニケーション能力を重視した訓練を行い、高学年では実務に役立つ専門性を備えた英語力の訓練を行うという「KOSEN英語」を是非継続して深めて欲しいと思います。

自主探究については、SDGsをより意識させ、SDGsの目標17のうちどの目標に貢献するのかを明確にしたテーマ設定を推奨すればよいのではないかと思います。

グローバルな視点で KOSEN 英語で人材育成をされる取組みは、素晴らしいと感じます。育った人材が国際的に活躍すると同時に、地元への貢献や地元定着にもつながる指導や配慮を期待します。